

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 6 日現在

機関番号：25502

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22592457

研究課題名（和文）在宅ターミナルケアに携わる訪問看護師の卓越した看護実践能力の抽出と教材作成の試み

研究課題名（英文）Extraction of excellent nursing competencies from visiting nurses involved in terminal care and an attempt to develop educational materials

研究代表者 田中 愛子 (TANAKA AIKO)

山口県立大学・看護栄養学部・教授

研究者番号：10285447

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、訪問看護師の看護実践能力が可視化できる教育教材を作成することである。在宅ターミナルケアに携わる 5 人の訪問看護師の同行観察と面接から、訪問看護に必要な 7 つの実践能力【的確な判断】【患者・家族を中心としたケア】【苦痛の緩和】【患者・家族に安心感を与える】【家族へのケア】【医師、他職種、患者・家族の調整を行う】【訪問看護師としての自己研鑽】について明らかにした。次にその実践能力が可視化でき在宅ターミナルケアの看護実践能力が学べる DVD を、患者のライフレビューの場面、安楽を目的としたリンパマッサージの施術場面、看護師の訪問看護実践能力についての語り、訪問看護カンファレンスの場面の 4 場面の構成で作成した。本 DVD からの学びを、訪問看護師 7 人と看護学生 159 人の視聴後の記述内容の分析から明らかにした結果、本 DVD は訪問看護師の実践能力を可視化できる教材であると評価した。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study was to develop an educational DVD with which visiting nurses' competences can be visualized.

The first phase of the study was to extract seven nursing competencies necessary for visiting nurses based on accompaniment-observations and interviews of five visiting nurses involved in terminal care. The identified competencies were as follows: "making accurate judgments," "patient- and family-centered care," "pain relief," "assuring the patient and the family," "family care," "coordination among the doctor, the other health care providers, the patient and the family," and "self-development as a visiting nurse."

The second phase was to develop an educational DVD, which consisted of four episodes: a patient's life review, an implementation of a lympho-massage with a purpose of providing comfort, a visiting nurse's account of competencies, and a visiting nurses' conference.

The final phase of this study was evaluation of the DVD as educational materials. Based on an analysis of written evaluations of the DVD by the seven visiting nurses and 159 nursing students after viewing it, it became evident that the present DVD was effective in visualizing visiting nurses' competences.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：在宅ターミナルケア、訪問看護師、看護実践能力、教育教材、ライフレビュー

1. 研究開始当初の背景

終末期医療のあり方に関する懇談会報告書¹⁾によると、自分が治る見込みがなく死期が迫っていると告げられた場合の療養の場所については、60%以上の国民が「自宅で療養したい」としている。また「自宅で最後まで療養したい」と回答した者の割合は、5年前、10年前の同調査結果と比較して増加している。このことから、在宅ターミナル期に携わる訪問看護師の役割はますます重要になるとともに、多様な対応能力が求められる。

在宅ターミナルケアに携わる看護師の困難感について、加藤²⁾は「ケアの重圧」「関わりの難しさ」「感情を受け止める」「訪問看護師としての揺らぎ」といった4つのカテゴリーを抽出した。さらに近藤³⁾は、在宅ターミナル期の家族支援について、導入期、安定期、臨死期の3期において困難な項目を明らかにしている。

在宅ターミナルケアにおける看護実践能力に関する先行研究では、松村⁴⁾が、訪問看護師に必要な実践能力について、「苦痛を緩和する」「療養者や家族の希望を支える」「家族ケア」「療養者・家族・医師の意向を調整する」「医師や他職種との調整をする」5つの力を見出している。中でも苦痛を緩和することについて菊池⁵⁾は、13人の訪問看護師の面接から19の苦痛緩和のコツを抽出している。

このように、多様な困難感があり様々な能力が要求される在宅ターミナルケアについて、熟練看護師はどのようにケアをしているのか、熟練看護師の卓越した実践能力を明らかにし、それを可視化することができれば、在宅ターミナルケアに苦悩する訪問看護師が研鑽を深めるヒントになるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、訪問看護師の看護実践能

力が可視化できる教育教材を作成することである。そのために以下の目標を掲げた。

- ①熟練した訪問看護師卓越した実践能力を明らかにする。
- ②①で明らかにされた看護実践能力が含まれているDVDを作成する。
- ③②で作成したDVDが看護実践能力を可視化する教育教材であるかを検討する。

3. 研究の方法

- (1)在宅ターミナルケアに携わる5人の訪問看護師に同行し、訪問看護師の実践能力を観察するとともに、面接から訪問看護に必要な看護実践能力について明らかにした。
- (2)在宅ターミナルケアの卓越した看護実践能力をDVDに編集し、教材を作成した。
- (3)(2)で作成したDVDが、訪問看護師や看護学生に有効な教育教材となるかを検討評価した。

4. 研究成果

- (1)訪問看護師の卓越した看護実践能力
 看護師経験14年～28年(平均20.2年)、訪問看護師の経験年数が7～17年(平均10.2年)の経験豊かな看護師へのインタビュー調査から得られたコードは353で、サブカテゴリー46項目が抽出され、【的確な判断】【患者・家族を中心としたケア】【苦痛の緩和】【患者・家族に安心感を与える】【家族へのケア】【医師、他職種、患者・家族の調整を行う】【訪問看護師としての自己研鑽】の7つの実践能力が得られた。その結果は表1に示した。これらの実践能力が可視化できる場面を選び、DVDを作成した。

(2)作成したDVDの内容

訪問看護師に同行し、観察を通して、ライフレビューの場面、リンパマッサージの施術、訪問看護師カンファレンスの場面は、表1の

実践能力が含まれていると判断し、DVD を作成した。

表 1. 在宅ターミナルケアに携わる熟練訪問看護師の看護実践能力

サブカテゴリー	カテゴリー
コミュニケーション技術	的確な判断
情報の中から効果的な物を引き出す	
患者・家族に寄り添う	
感性を張り巡らせた関わり	
タイミングを図った介入	
言葉の本質を見抜く	
的確な対応	
患者に合った必要な看護を実施し評価する	
患者を認める	患者・家族を中心としたケア
対象の理解	
人間対人間の看護を実施する	
患者・家族の自己決定のサポート	
相手のペースに沿う	
患者・家族を良い治療・ケアの方向に導く	
患者中心	
医療従事者として最期まで患者・家族を全力で支える	
患者・家族を受け止め支援を行う姿勢	苦痛の緩和
死期の近づく患者・家族の感情を引出し、理解し支援していく	
その場面で、患者にあった看護技術を行い、苦痛緩和に繋げる	
身体的苦痛もだが、精神面での苦痛も取り除く	家族へのケア
先を見通した対応	
家族の実施した看病を認めていき、グリーフケアに繋げる	
家族が患者の死を受け入れられるように関わる	
キーパーソンを見極める	患者・家族に安心感を与える
家族の力量に合わせた関わり	
初回訪問で患者・家族と信頼関係を形成する	
不安の軽減	医師・看護師・他職種・患者・家族の調整
一回、一回の訪問を大切に看護を実践していく	
患者・家族に対して責任感を持つ	訪問看護師としての自己研鑽
患者・家族の暮らしへの関わり	
医師と患者・家族の仲介能力	
訪問看護師と医師との連携	
スタッフ間の連携	
気分転換を大切にする	
看護師自身の思いを表出する	
感謝の気持ちを持つ	
プラスで物事を見る	
存在価値を認めていく	
看護実践の振り返り	
知識を得る	
思い上がらない	
自己理解	
次のステップを踏む	
自分ができる方法を見つけ出す	
アセスメント能力	
視点の多様さ	

① ライフレビュー

A看護師は、ターミナルステージにあるB氏が、自分自身の病気に対する思いや今までの人生を振り返り語ることによって、今の状態を受け止めることができるのではないかと考え、B氏の話に聞いている。B氏は仕事や家族、病気のこと、妻への感謝の気持ち、少し暖かくなったら妻と散歩に出かけたいと語っている。



② 安楽を目的としたリンパマッサージの施術場面

B氏の安楽に気を配りながら、ゆったりとマッサージを行っている。



③ 訪問看護の実践能力についての語り

アセスメント、看護技術の重要性、症状緩和の重要性、看取りに向けた家族ケア、利用者・家族に安心感を与えるケア、患者、家族、医師との連携について説明する。

④ 訪問看護カンファレンスの場面

訪問看護師、他職種と一緒にカンファレンスを行い、患者をケアする上での課題等について話し合っている。



(3)DVD の評価

①7名の訪問看護師にDVDを視聴してもらい、その感想を質問紙調査と面接で聴取した。

DVDを視聴した訪問看護師は、通算の看護師経験年数が16年目から27年目であり、十分な経験を有していたが、訪問看護師としての経験年数は9か月から18年目とばらつきがあった。質問紙調査と面接の結果、ライフレビューの場面については、「本DVDを視聴することで自分自身のケアを評価することができる」ことがわかった。また、「アセスメント能力の重要性の再確認」「豊かなコミュニケーション能力」の学びを得たことがわかった。

②看護学生の評価

D、E看護系大学159人の学生のライフレビューの場面で見られた看護実践能力について記述を内容の類似性で整理した。結果、すべての学年で、「卓越したコミュニケーション能力」「患者の思いを引き出す」「患者・家族を中心としたケア」「患者の希望を支える」「安心と安楽を与える」の5つのカテゴリーが抽出された。また、2年次以上の分析からは「卓越したアセスメント能力」が加わった。

図1は3年次学生54人の記述の分析から抽出した看護師の実践能力と患者の思いを図式化したものである。ライフレビューの場面から、「安心と安楽の提供」「家族ケア」「患者・家族を中心としたケア」「卓越したアセスメント能力」「卓越したコミュニケーション能力」「尊重する態度」「思いを引き出す」「あたたかい雰囲気」「希望を支える」の9つの能力が抽出された。B氏の語りからは「自分の気持ちを整理する」「人生を肯定的に振り返る」「妻への感謝」「希望を抱く」の4つの気持ちや思いが引き出された。

3年次生を対象とした分析結果は、(1)の調査で抽出された訪問看護師の看護実践能力の7つの内の【的確な判断】【患者・家族を中心としたケア】【家族へのケア】【患者・家族に安心感を与える】に合致する。

また、ライフレビューの場面から抽出されなかった【苦痛の緩和】【医師、他職種、患者・家族の調整を行う】【訪問看護師としての自己研鑽】の実践能力は、リンパマッサージ、訪問看護カンファレンスの場面から学習できるものと思われる。

③総合評価

以上の結果から、今回作成したDVDは、訪問看護師の卓越した看護実践能力を可視化することができる」と評価した。

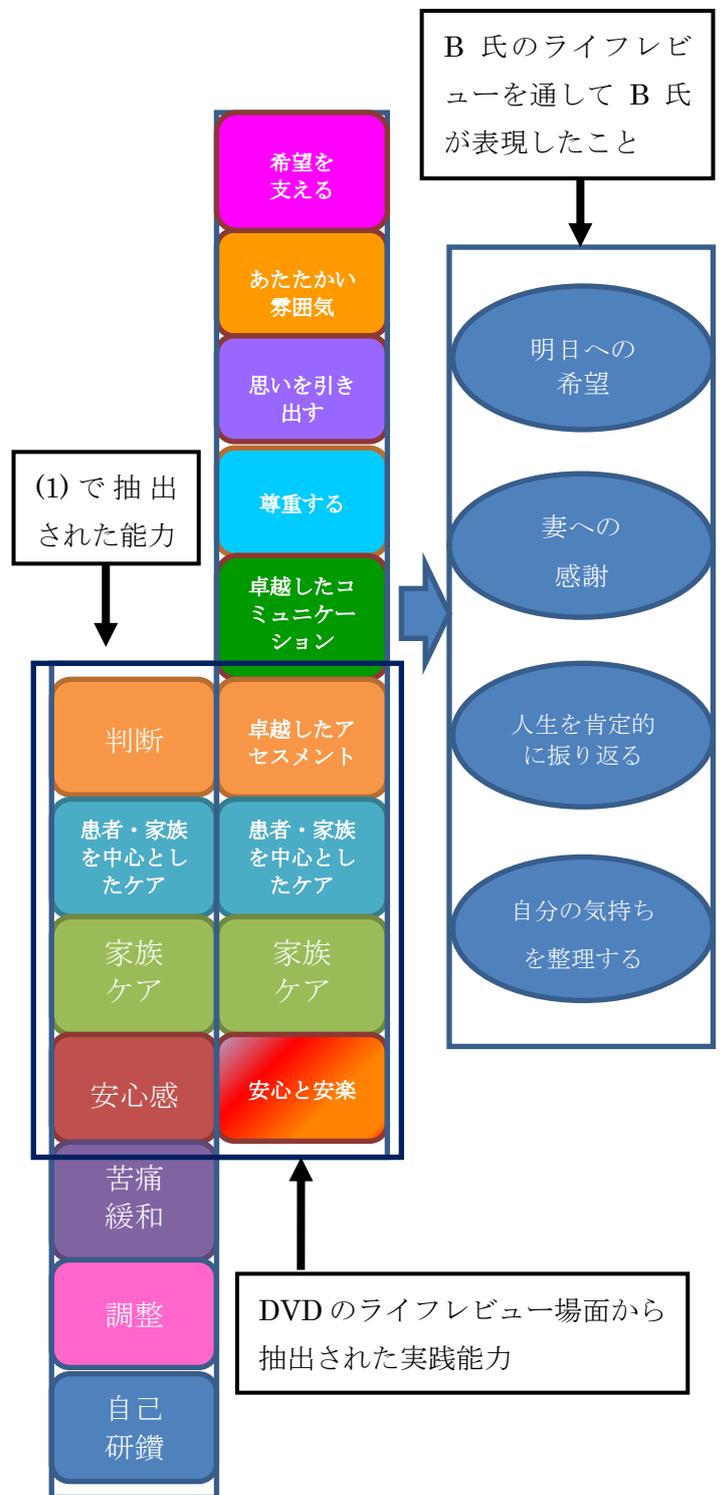


図1. DVDに見出された訪問看護師の実践能力と患者の思い

結論

(1)在宅ターミナルケアに携わる5人の訪問看護師の同行観察と面接から、訪問看護に必要な7つの実践能力【的確な判断】【患者・家族を中心としたケア】【苦痛の緩和】【患者・家族に安心感を与える】【家族へのケア】【医師、他職種、患者・家族の調整を行う】【訪問看護師としての自己研鑽】について明らかにした。

(2) その実践能力が可視化できる在宅ターミナルケアの看護実践能力が学べる DVD を、作成した。その内容は、B氏のライフレビューの場面、安楽を目的としたリンパマッサージの施術場面、A看護師の訪問看護の実践能力についての語り、訪問看護カンファレンスの場面の4場面の構成であった。

(3) 本 DVD からの学びを、訪問看護師7人と看護学生159人の視聴後の記述内容の分析から明らかにした結果、本 DVD は訪問看護師の実践能力を可視化できる教材であると評価した。

文献

- 1) 終末期医療のあり方に関する懇談会報告書(平成22年12月) p89

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryou/zaitaku/dl/07.pdf#search=%E7%B5%82%E6%9C%AB%E6%9C%9F%E5%8C%BB%E7%99%82>

- 2) 加藤英子：在宅ターミナルケアにおける訪問看護師の困難感，日本看護学会論文集地域看護，112-114，2008
- 3) 近藤望他：在宅ターミナル期の家族支援に対する訪問看護師の困難感，緩和ケア，17(2)，170-174，2007
- 4) 松村ちづか：在宅ターミナルケアで看護師に必要な実践能力-必要な看護実践能力の内容と課題-，埼玉県立大学紀要，6，61-66，2004
- 5) 菊池和子：岩手県の在宅ターミナルケアにおける訪問看護師の行う苦痛緩和のコツ，岩手件留知大学看護学部紀要，7，81-90，2005

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計2件)

① 田中愛子、岩本テルヨ：在宅ターミナルケアに携わる熟練訪問看護師の活動を収録したDVDからの学び、日本死の臨床研究会、2012年11月4日(京都市)

② 田中愛子、岩本テルヨ：在宅ターミナルケアに携わる熟練訪問看護師の活動を収録したDVD教材の作成と効果、日本公衆衛生学会、2012年10月26日(山口市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 愛子 (TANAKA AIKO)
山口県立大学・看護栄養学部・教授
研究者番号：10285447

(2) 研究分担者

岩本 テルヨ (TERUYO IWAMOTO)
西南女学院大学・保健福祉学部・教授
研究者番号：80285444

(3) 連携研究者
なし ()